エルベ独日フォーラム和歌山親善使節団の旅行報告
2019 年 11 月、和歌山県新宮市は、
新宮城への水野家入部 400 年記念を祝う催しを開きました。

新宮市長の田岡三千年氏は、エルベ独日フォーラム会長を務め、新宮水野家の末裔でもあるモニカ水野ベロイター氏だけでなく、全てのエルベ独日フォーラム会員をその記念事業に招待して下さいました。

エルベ独日フォーラムで希望者を集い、和歌山への旅行計画が行われ和歌山親善使節団が発足し、11 月初旬に 13 名の参加者が和歌山市に集合しました。
美しい海岸に沿って和歌山市から新宮市へ鉄道で移動する前に、私達親善使節団一行は、和歌山県知事、仁坂吉伸氏を表敬訪問しました。

夜には和歌山日独協会が歓迎会を開いてくださり、そこでも仁坂和歌山県知事、並びに和歌山日独協会会長の樫畑直尚氏から私達を歓迎するご挨拶を頂きました。そして同会会長の樫畑氏に、エルベ独日フォーラム名誉会員になっていただきました。

またこの席に、ハンブルクの姉妹都市である大阪市から大阪日独協会の常務理事・事務局長の和田展子氏がわざわざお越し下さったことも、とても喜ばしい出来事でした。

和歌山日独協会及び和歌山県庁の皆様は、私達一行を和歌山市立博物館に於ける徳川家入国 400 年記念特別展「徳川頼宣と紀伊徳川家の名宝」、和歌山城公園での茶席、そして和歌山城見学にも案内して下さいました。

紀州徳川家の居城であった和歌山城がとても良く見えるホテルに滞在した私達は、特急列車「くろしお」に乗り、和歌山市から新宮市に移動しました。
新宮市駅に到着した私達一行を、新宮市副市長や新宮市役所商工観光課の皆様があたたかく出迎えて下さいました。

駅前や市役所前そして商店街には「The 400th anniversary of the Mizuno‘s family settlement in Shingu 1619 – 2019 水野家入部」と書かれた沢山の幟が既に 10 月から飾ってあり、新宮市はもうお祭りムードに包まれていました。新宮城跡の頂上に上る歴史的な石段には、毎晩綺麗にライトアップされた和傘が飾り付けられてありました。
また城跡にある別の近代的な石段には、小学校５・６年の生徒さん達が作った竹灯りが飾ってありました。

11 月 9 日、新宮市役所別館では、「水野家と新宮城下町・水野家入部と新宮の発展」と題した講演とシンポジウムが開催され、モニカ・水野ベロイター会長がパネルディスカッションに参加しました。
パネルディスカッションのコーディネーターは、水野宗家 20 代当主水野勝之氏でした。登壇者は、紀州徳川家第 19 代当主、徳川宜子氏、新宮市長、田岡三千年氏、広島県三原市長、天満祥典氏、そして愛知県刈谷市副市長川口孝嗣氏でした。ちなみに、広島県三原市では、水野家入部に伴い新宮から三原へ移封した浅野家の入部 400 年記念のお祝いが行われたそうです。

日本語のできないエルベ独日フォーラム和歌山親善使節団メンバーの為に商工会議所青年部は、シンポジウムの時間帯に合わせて、会社見学をアレンジして下さいました。私達は、日本酒や畳そしてかつお節などといった、現在でも日本人の生活に欠かせない伝統的な製品を作る幾つかの会社を見学する事が出来ました。

その日の夕刻からは新宮市福祉センターにおいて、水野家入部 400 年記念事業交流会が開かれました。エルベ独日フォーラムのモニカ水野ベロイター会長は、同氏所有の歴史的にも貴重な新宮水野第十四代当主水野誠の御夫人であった水野たか子氏の着物を新宮市に寄贈しました。

11 月 10 日には、世界遺産でもある熊野速玉大社から新宮城跡まで昔ながらの衣装を着けた時代行列が行われ、新宮市長や新宮市民、水野宗家 20 代当主、水野勝之氏とエルベ独日フォーラム和歌山親善使節団のメンバーもそれぞれ衣装を着て、練り歩きました。

かつて立派なお城があった小高い丘にある新宮城跡には現在、いくつかの堡塁跡や休憩所があり、茶会も催されました。そこからは熊野川河口やその先にある大海原の素晴らしい眺望が見渡せました。

水野家入部 400 年記念事業実行委員会は踊りやチャンバラ合戦など様々なアトラクションを企画してくださいました。また屋台も多く立ち並びその中には、「ドイツフェスト」と題してソーセージやジャガイモ、豚肉をメインにしたドイツ料理やドイツのビールも販売されていました。
私達一行は、新宮市からの手厚いおもてなしにとても心打たれました。

翌日からは自由時間となり、ガイジンポットというウェブサイトで「訪れるべき観光地ナンバーワン」として推薦された熊野地方の世界遺産を訪問しました。英語のガイドさんと共に熊野速玉大社、熊野三山権現山、壮観な那智の滝と熊野那智大社、そして熊野本宮大社も見学しました。
瀞峡（どろきょう）ジェット観光船にも乗り、湯の峰温泉では足湯を楽しみ、熊野の魅力を満喫しました。

その後和歌山市に戻り、当地のホテルを拠点に大阪、京都、奈良、高野山、姫路、岡山そして倉敷を訪問しました。

この場をお借りして水野家入部 400 年記念事業実行委員会、またすべての関与してくださった皆様、そしてこれら自由時間における素晴らしいプログラムを計画立案して下さったエルベ独日フォーラム会員のヴァルター・ディームベック博士に感謝申し上げます。ディームベック氏は、リューネブルク独日協会理事としてのみならず、個人的にも日本へ何度も旅行されており、大変貴重で豊かな経験をお持ちです。

この旅行の最後にモニカ・水野ベロイター会長は、現在千葉県にお住いの、本会創立当時の在ハンブルク日本国領事事務所（現在は総領事館）所長であった深川康氏を訪問し、エルベ独日フォーラムの名誉会員になっていただいた事も併せてご報告させていただきます。

令和二年正月　ビルギット・クロイゼル